
魔法少女リリカルなのは ～優しい風と守りし大地～

tarou

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは　　優しい風と守りし大地　　

【Nコード】

N29170

【作者名】

t a r o u

【あらすじ】

元の世界から見放された者たちがリリカルなのはの世界で多くの悲しみと対峙する。その時、人は何を思う…
道具や技の多重クロスあります。

プロローグ（前書き）

始まりの時、今ここに...

プロローグ

????：「ここは…どこだ…」

そこは真つ白な世界だった。すべてが白く何もなく、何もが存在してはいけないような感覚に襲われた。

謎の女：「ここは神界の中でも最高位に属する聖地…全てを否定し、存在を無くすための場所よ。」

????：「っ…誰だおまえは!!」

謎の女：「私は創世神…この聖地を管理する神にして、世界を唯一、創世する神よ。」

????：（神だと…）

創世神：「失礼よ！私は本物の神よ。可哀想な人ではないのよ。」

!!…なぜ心が読まれた…

創世神：「それは神様だものこれ位は当然でしょ…」

どうやら本当に神様らしい。

創世神：「いや…こんな事で信じられても…」

????：「で…その創世神様がなぜ俺の前にいるのかな…かな…（ひぐ。しの竜宮。ナ風に）」

創世神：「それは簡単よ…あなたは前にいた世界には毒でしかないから、神の間で別の世界に転生させることが決定され、世界から隔離するためにここに喚んだのよ…」

???：「おい！！待て俺が世界の毒とはどういうことだ！！俺はっ…」

（どうしてだ！！何も思い出せない！？）

創世神：「それはそうよ…あなたという存在は今、世界に記憶されていない…世界が知らないと言うことは、居ないと同じなのだから…。」

???：「…そうか…１つだけ質問していいか…」

創世神は何も言わずに頷いた。

???：「ありがとう…前にいた世界での家族や友人はどうなる？俺を探しているのではないか…」

創世神：「いえ…１人を除いてすべての人の記憶からあなたという存在は抹消されています。」

???：「１人…それは誰だ…そいつはどこにいる…」

創世神：「それは…あなたの義妹です。あなたへの思いが強すぎて忘れることができなかった存在…それは魂のレベルまで達しており、世界の強制力ですら意味を成さなかったほです。今は世界からあなたと同じように毒と認識されてしまい。ここの近くの聖地で眠ら

されています。」

???：「わかったありがとう。…で俺はこれからどうすれば良い？」

創世神：「…てつきり義妹を助けようとするのかと思いました。」

???：「ああ…出来ることなら助けてやりたい…だがもし俺が助けてられたとしても、俺はこの世界について知らないからお前からは逃げ切れないし、もし逃げ切れたとしても俺が義妹を縛り付けてしまう…だから今は眠らせてあげたい…俺のことを忘れるくらいに…」

創世神：「…そうですね…ならあなたの進むことのできる道は3つあります。」

そう言うとき創世神は手から3つの球体を出した。

創世神：「1つ目は、希望の道。」

そう言うとき球体の一つを俺の前に出した。

創世神：「これは忘れられた幻想の集まる都へ行き、いろいろな存在とふれあい、自分の大切なものをつくる世界…」

目の前にある球体が黄色の光を放つと、創世神のほうへ戻って行き、2つ目の球体が目の前に出てきた。

創世神：「2つ目は友情の道…これは悲しみの多い世界。しかし、友と言う心の力を手に入れる…自分の存在を認めてくれる無限の力

の世界。」

球体が今度は、淡いブルーに光を放つと、創世神のほうへ戻って行き、3つ目の球体が目の前に出てきた。

創世神：「3つ目は勇気の道…ちいさな勇気の灯火が、信頼できる仲間たちと一緒に大きくなっていく…愛する者がいるという喜びと力だけがすべてではないという強固な盾の世界」

最後の球体が赤い光を放つ。

創世神：「さあ…あなたはどの世界を選ぶ！」

俺はそう言われて少し考えようとした。

創世神：「考えるな！！答えは自分の魂が既に知っている。自分を信じなさい！」

創世神の叱責に怯んだが、俺は静かに目を閉じた。

????：（そうか…俺は答えをだしていたんだな…）

俺は静かに目を開き創世神に告げた。

????：「俺は…」

プロローグ（後書き）

いかがだったでしょうか？駄文でしたが楽しんでいただけたならさ
い幸いです。

幕開け〜選択とパートナー〜

????：「この世界を選ぶ。」

そう言うとき青く輝く球体を指差した。

創世神：「そうですか…世界は決定しました。」

????：「そうか…なら速く転生させてくれ…ここにいるとすべてが無くなりそうだ…」

創世神：「待つてください。あなたには多くの悲しみには心が耐えきれないでしょう…なので悲しみと戦うだけの力を与えます。その間、自分の名前を考えて下さい。」

????：「悲しみに心が負けるか…確かに悲しいことは嫌だ。なら力をもらえるなら貰うよ。あと名前か…」

創世神：「……………これで終わりましたよ。名前は決まりましたか？」

????：「いや……………そうだお前が決めてくれないか？」

創世神：「なぜ私が？あなたの名前ですよ？」

????：「いや…俺がこれから送る人生は、お前が与えてくれた最高のものだから俺は、その人生を送るのに絶対に俺が俺や義妹のこいもつととを助けてくれたお前という存在を忘れないために、あともし俺が死んでも俺の名前を知っているということは、お前がいたという証

になるなと思ってな…」

創世神：「／／／…っわっわかったわよ…」

???：「??…なんかキャラが違うような…」

創世神：「別にいいのよ!!こっちが本当の性格なんだから!」

???：「おう…そうか??」

創世神：「名前ね……………やかぜりん八風凜なんてどうかしら

?」凜：「八風凜か。良い名だ。ありがとな!」

創世神：「喜んでもらえたならよ。……………ねえ…せっかくだから私の名前教えてあげる。」

凜：「あれ…創世神じゃないのか?」

創世神：「それは世界が与えた私の総称で私個人の名前ではないの。だから私は私の意志であなたに名前を教えたいの…」

凜：「そう言うことか…じゃあ名前を教えてくれ。」

創世神：「…私の名前は八風!八風よ。おぼえておいてね。」

凜：「八風か…ってお前、自分の名前を名字に使ったのかよ!?」

八風：「ええ…ダメだった?」

凜：「いや…ダメではないが…」

(なんか結婚したみたいだな…／／／)

八風：「なら速く行くよ!!」

凜：「行くつてお前は、どこに…うぁー!!」

突然下に穴が開き、俺は落ちて行き俺はきを失った…。

凜：「ここは…」

俺は気がつき、あたりを見回した。

???：「ここはあなたの選んだ世界よ。」

凜：「何故いる八風…」

となりに八風がいた。神ならばここにはいけないのでは？

八風：「簡単よ。あなたを追ってきたのでへ(*^_^*)b」

凜：「?」(□)(…いいのかよ!神様なのに仕事とかないのかよ!」

八風：「いいんじゃない?私もう神じゃないから。」

凜：「(。(。d(。(…何故!」

八風：「簡単な話だよ。私はあなたに真名を教えてしまったから。」

凜：「……………は??」

八風：「だから真名を教えたの。神の世界では女神は、自分の真名を生涯の伴侶の男神にしか教えてはいけないの。神ならばその真名を知っていれば、どんな神でも言いなりにできるから…だから私は罰としてあなたと同じ人間にされたんだよ。」

凜：「ああ…わかったがどうして俺なんか真名を教えてくれたんだ…？あそこで別の名前を言えば良かったじゃないか？そうすれば、神の座から降りなくてすんだんじゃないか？」

八風：「確か別の私を指す名もあるよ。」

凜：「じゃあなんで…」

八風：「…でも私が別の名をあなたに教えていれば、私はあなたがくれた信頼を間接的に裏切りになつてしまうと思つたから…私は信頼をくれたあなたを間接的にはいえ裏切りたくないの…だから…」

凜：（…ありがとう）「じゃあ今後ともよろしくな…／／／／」

八風：「はい!!」

凜：「でも…これから八風のことをどう呼べばいいんだ？」

八風：「八風でいいですよ。…『でもそれ真名じゃん』…大丈夫ですよ。もう真名の効力はなくなったから。」

凜：「どうゆうことだ？」

八風：「現在、私はあなたのお嫁さんということになっていきますから…／／／／」

凜：「……………why？」

八風：「さっきの説明したけど、伴侶の男神にしか教えてはいけないといったじゃない。それは結婚する時の儀式でもあるの。女神は結婚すると真名の使用することができるのはその男神だけになるの…何故かは分からないけどあなたでも結婚できたきようで、機械が真名授与を認識してしまいましたから…そのようなことになったのでもこんな事異例だったので…私は神特有の能力だけを封印されてあなたの所に追放されたの…」

凜：「そう言うことか…ところで神特有の能力って何のことか？」

八風：「それは神のみが使える能力が2つ有って、1つは次元の想像。もう1つは生物の想像よ」

凜：「なるほどな…まあ、大体のことはわかったかな。…っとその前に…」

八風：「何ですか？」

凜：「本当の意味でこれからよろしくな。八風！-」

八風：「はい！！！！あとあなたに与えた能力のリストです…あとで読んでおいてください。」

八風はそう言うと一枚の用紙を俺に手渡した。

能力説明〱元神の實力とチート〱

俺は用紙に書かれた文字に目を通した。

八風凜の能力

？世界の記憶
アカシック・レコード

…全ての事象を知ることができる。感情によって制御されているので、意味の無い時に使っと、制御が疎かになるため一度に大量の情報流れ込むので注意。その気になれば、未来まで見れるが一つの確率にすぎないためあまり意味がない。

？能力運用
スキル・オン

…魔力や力を自由に変更できる。さらに技術や固有能力をのたまかな概要を知ることが出来れば、それを扱う事が出来る。

？契約

…自分の従者への力の供給能力。

契約方法は、キスまたは真名授与もしくは血の契約（宝石を用意し、従者と凜がその宝石に血を垂らすことによる契約）。契約を行うと宝具と一部、凜の能力の使用や能力の平均値が上がる。

？服従

∴人や人と同じ位の知能を持った生物（使い魔は除外）以外を従わせる能力。意識は残るため感情に関することや相手自身を傷つけることは不可能。

凜：「チートだな……」

八風：「仕方ないでしょ……」

能力説明〜元神の实力とチート〜（後書き）

修正・2 / 1 4

遭遇し世界への嘆きと悲しみ

凜：「これからどうするか決めないとな…」

八：「そうね。」

凜：「まずここがどこなのかを知らないとな」八風、何処なんだここは…??」

八：「此処は厳密に言えば違うけれど、あなたの感覚でいうアニメの世界という感じのものよ。」

凜：「へえ、アニメの世界か… …… って！！アニメかい！」

八：「そうよ… あなたが転生する前に見ていたアニメ『リリカルなのは』って言うアニメの世界ね… 原作開始からだいぶ前の翠屋の近くの空き地にいるようね…」

凜：「… ああ… なんか慣れ始めている自分がこわいな… 所でなんで原作開始前に…」

八：「当たり前じゃない！！あなた、能力の使い方やデバイスを作

るのに時間がかかること忘れていない。」

凜：「そうだったな。あとここがあのリリカルなのはの世界なら原作のようにしないとならないのか？」

ハ：「いえ…そんなことはありません…あなたの好きなようにしてくれていいわよ。」

凜：「どうしてだ？それこそ世界にとって『毒』なんじゃないか？」

俺と義妹が『毒』だったように…

ハ：「……それはないわ。」

凜：「どうしてだ？」

ハ：「さっき言ったように厳密に言えば此処は【リリカルなのは】の世界観に似ているというだけであって、アニメの中ではないからよ。だからあなたが存在することが肯定された世界でもあるのよ。」

凜：「なるほどな。じゃあ、まず住むところを探さないとな…」

八：「そうね…少し待って貰えるかしら？」

凜：「???…どうしたんだ？」

八：「いいから…では『我、彷徨える民。安住の地を捜し求めたり、彼の人の願い感じたる大地の精霊よ。今、此処に我らが進むべき道を示したまえ』」

八風が呪文を唱えるとすぐに大地が揺れ、まるで大地に意識があるような感覚に陥った。

凜：「な！？どうしたんだ！」

八：「心配しないで。ただ、大地の精霊に話し掛けてるだけだから……うん…うん…いいわ、ありがとう。こっちよ…」

凜：「おい！！何処に行くんだ！？」

八：「住むところに案内するのよ…」

凜：「えっ…どういうことだよ！？おい！」

）
神様一行移動中
）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2917o/>

魔法少女リリカルなのは ～優しい風と守りし大地～

2011年10月7日08時19分発行